

令和4年1月13日
新世紀 J A 研究会

准組合員は農業の応援団

～ J A 秋田しんせいの准組合員対策～

 JA秋田しんせい

佐藤 茂良

足元の状況

■ 組合員数の推移と将来予測

(単位：人)

と き	正組合員	准組合員
合併時 平成9年4月1日	17,672	6,676
現 在 令和2年年度末	10,055	9,125
将 来 令和8年度末見込	8,365	8,726
将 来 令和12年末見込	7,151	7,891

正組合員

- 合併以来、減少傾向が続く
- 高齢化が顕著、農業リタイヤも増加
 - 平均年齢（合併時）58歳→（現在）68歳

准組合員

- 住宅ローン伸張に伴う新規加入で増加傾向

地方のJAだが 近い将来「正准逆転」の予測

- 農業協同組合として、正組合員との農業振興はもちろん、准組合員との関係性も非常に重要な局面を迎えている

【課題提起】 准組合員と農業のつながりが希薄

【こんな姿を目指す】

准組合員と力を合わせた

農業の振興

J A と准組のさらなる結びつきが
J A 秋田しんせいの
管内農業を支える

正組合員が准組合員の存在に
価値を感じる

正組と准組がお互いに認め合って
管内農業が盛り上がる

自営農業を
リタイヤした正組
(高齢・離農・農地集約)

農業・食料に
関心の薄い
准組・員外
(たまたま J A を選択しただけ)

准組合員を増やす

(農業に長けた)

准組合員へ

- 営農知識・栽培技術
- 機械オペ能力
(農業の手伝い)

(農業を理解した)

准組合員へ

- 地産地消
- 農業の手伝い
- 当 J A の考えへの共感

新規加入対策～想いを持って加入する方を増やしたい～

【ポイント】「農業っていいな」「農家さんを応援したい」「農業が続いてほしい」と感じてもらった上で、准組合員加入につなげたい

魅力を伝えやすいのは 食べて応援

司令塔 令和2年3月設立
Agri・Food未来企画課

- 生活担当・女性部・広報の力を合体
- 農業と食の理解促進につながるコンテンツを作り全役職員で営業



パックご飯

- 「土づくり実証米」として商標登録している「こだわり米」

間もなくデビュー
もちもちとした
触感がたまらない
「米粉パン」



季節の美味しい福袋お届け便
● R02年度開始 ● 利用者1,000件超



新米直売会
● R02年度開始 ● R03販売1,700袋



支店 青果・花き直売会
● R03年度開始 ● 雹害キャベツも販売



精米設備リニューアル
● R03年度開始
● 様々なサイズでニーズに応える



間もなくデビュー
健康と美容に100%米粉の
「グルテンフリーうどん」
米粉うどん・しいたけうどん
● R02年度開始
● 米の消費拡大・規格外品しいたけの活用



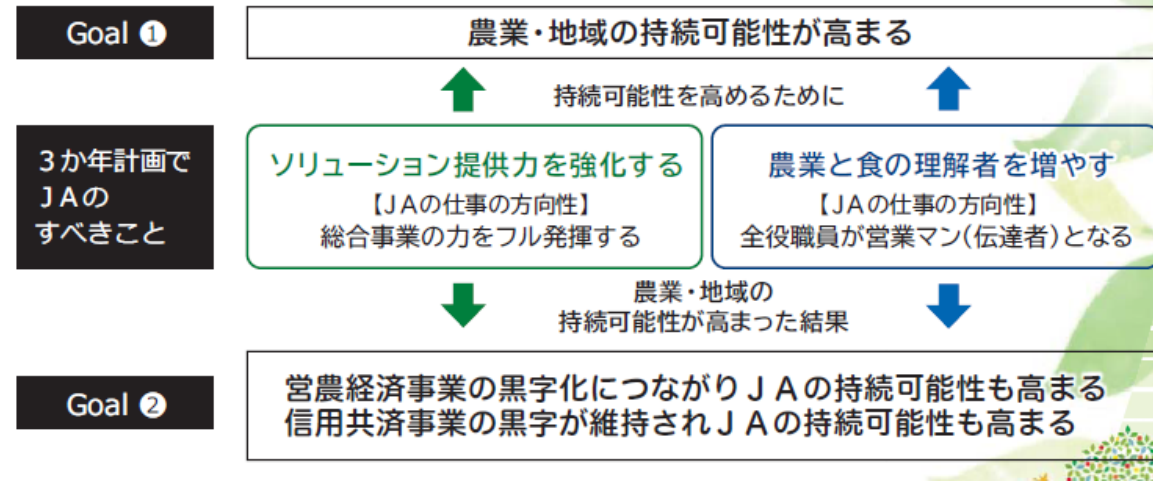
しいたけと秋田由利牛のうま煮
● R03年度開始
● 規格外品しいたけの活用

その様な状況下での第9次3か年計画 (令和3年度スタート)

キャッチフレーズ

創り出そう「農」の未来と「地域」の未来
～農業・地域・JAの持続可能性向上に挑む～

JAが実現したい姿



令和3年度よりスタートした3か年計画ですが、その始まりは…

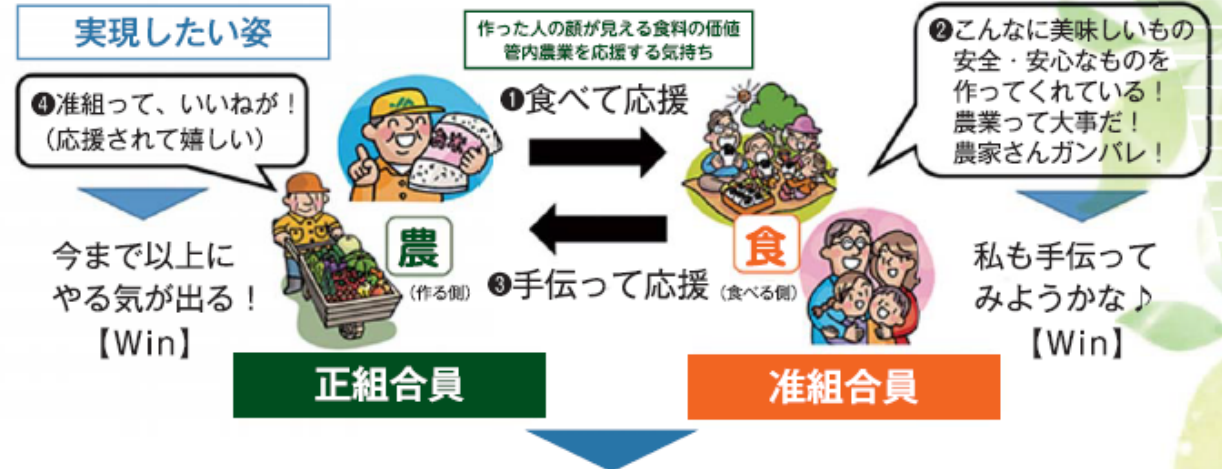
農業の応援団の獲得

方針

全役職員が営業マン(伝達者)となって農業と食の理解者を増やします

令和2年度、Agri・Food未来企画課が中心となり「季節のおいしい福袋お届け便」や「新米直売会」などで管内、管外に当JAの農畜産物の応援団を拡大してきました。Agri・Food未来企画課の活動を広げることで、農業と食に理解のある地域を目指します。

実現したい姿



正組合員と准組合員が、お互いを理解し合う地域を創ることで農業・地域の持続可能性が高まる

- ▶ まずは「食べる事」で応援してくれる方を増やし
- ▶ さらに進んで「農業と食の大切さを理解して」応援してくれる方を増やし
- ▶ さらに進んで「手伝って」応援してくれる方までつなげたい

生活担当・女性部の力
農畜産物・食育の力を
組み合わせて促進する

新規加入対策～想いを持って加入する方を増やしたい～

季節のおいしい福袋お届け便 を

1年間食べて応援して下さいの方へ
当JAの想いを伝達し
准組合員への加入をアプローチ

農業を応援してくれる方に准組合員になってほしい！

- 当JAは准組合員を農業の応援団と位置付けています！
- 准組合員・協同組合・出資金は、こういう仕組みです！

令和3年度
各地より
150名が
准組合員加入
(R3.10月現在)

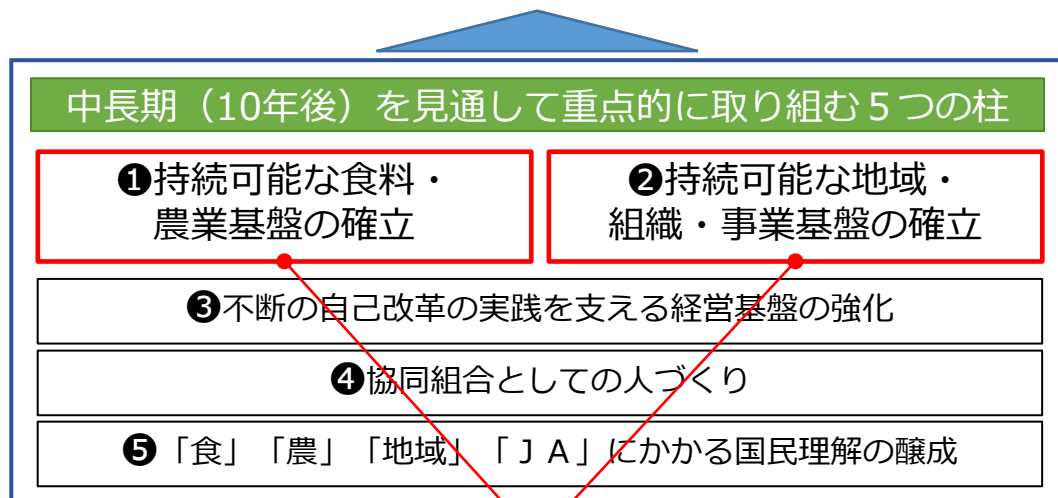
【定款】第12条_組合員の資格 第3項第3号抜粋

この組合から組合員の事業又は生活に必要な物資の供給、
事業に係る物資の供給又は役務の提供を **1年以上継続し**
て受けているこの組合の地区外に住所を有する個人で
あって、引き続きこの組合の事業を利用することが適当
であると認められるもの

第29回 J A 全国大会議案の確認

J Aグループのめざす姿（10年後）

- 持続可能な農業の実現
- 豊かで暮らしやすい地域共生社会の実現
- 協同組合としての役割発揮



めざす姿の実現に向けた基本的考え方

- 組合員や地域住民などの**多様な対象者と関係を強化**していくため、**その属性や特性をふまえた対象者を特定**し、そのニーズに応じ、組合員・利用者目線で総合事業全体として求められる取組実践方策を定める

当JAの方針を信じて疑わないものである！！

対象者	対象者の属性・特性 ^注	農業振興上の区分
正組合員	① 地域農業をリードする「担い手経営体」である組合員	農業振興の主人公
	② 地域農業を支える「中核的担い手」である組合員	
准組合員	③ 地域・農村を支える「多様な担い手」である組合員	農業振興の応援団
	④ 正組合員とともに、地域農業や地域経済の発展を支える組合員	
地域住民・関係人口	⑤ 食と農に関する活動に取り組む地域住民・関係人口	

既存組合員対策～農業を応援したいという気持ちを醸成し応援行動を促す①

【背景】秋田県内では、自己改革に対して「JAの自己評価」と「組合員の受け止め方」には大きな隔たりがある。

JAの自己評価

自己改革を推進している！

- 農業者の所得を増やすため、農業生産を拡大するため頑張っている！
- 地域の活性化に貢献するため頑張っている！

自己改革の
取組状況を
伝えきれていない



組合員の受け止め

自己改革？

課題認識

- 「正組合員」へしっかり伝えることは、当然に重要である
 - 一方「准組合員」も「組合員」である
- ↓
- 准組合員にも「自己改革」の取り組みをしっかりと伝え、JAを理解してもらって

「メンバーシップ強化」につなげたい

課題解決に向けて

准組合員の声を組織・事業運営に一層反映していくことを目的に

准組合員にかかる意思反映・運営参画促進要領を制定

- ① 「正組合員とともに地域農業や地域経済の発展をともに支える組合員」であり「農業の応援団」
- ② JAのイベント・行事を通じたモニターアンケートの実施
- ③ 准組合員向けの会議体の開催

応援の声を「正組合員」に伝える

令和3年12月_J A広報誌Wind's

季節のおいしい福袋お届け便に
寄せられた応援メッセージを掲載

稲作農家の皆さま！

「季節のおいしい福袋」お届け便
に寄せられた応援のコメントです！

J AではAgri・Food未来企画課が中心となり、全役職員で農業と食の大切さを伝える営業活動を行い、管内農業の理解者を増やす取り組みをしております。その一つで、令和2年度より取り組んでいる「季節のおいしい福袋お届け便」に寄せられた応援コメントをご紹介します。土づくり実証米とっても好評ですよ！

- 由利本荘のお米、とってもおいしかった。
(青森県 20代 女性)
- 新米もつとほしいです。ありがとうございます。
(宮城県 10代男性・30代女性)
- 同じ秋田でも本荘の米はとてもおいしい。毎回秋田市から本荘に買いに来ています。県外の娘にも本荘の米を贈っています。
(秋田県 70代 女性)
- 同じ米農家ですが、本荘の米、とてもうまいです。J A秋田しんせいのバックごはんもとてもおいしい。
(秋田県 60代 男性)

正組合員の「元気・やる気」
につなげたい

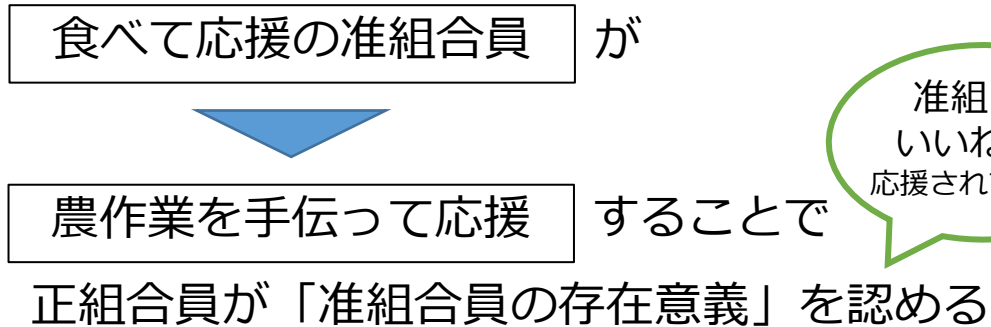
准組合員の声

- おいしい食材を食べて、ふるさとの農業を応援したいと思います。
(東京都 50代)
- 国産の物を食べさせたいと思い、値段よりも生産地を気にしています。国内の食を支えつづけている農家の皆さまありがとうございます。ぜひ、応援させていただきます。
(埼玉県 30代)
- 土づくり実証米、とっても美味しい！お米だけで食べれます！
(東京都 60代)
- コロナで地元に戻れず、徐々に秋田のものが食べられてうれしかった。
(宮城県 30代)
- 食べ物を店から買って消費するだけでなく、お手伝いしながら、自分で収穫した新鮮とれたての農産物を食べてみたい。
(秋田県 40代)
- しんせい農協の理念に共感しました。遠くのためなかなかお手伝いできないので出資して農家さんを応援します。
(愛知県 40代)
- 食べるまでの過程がどうなっているのか興味があります。手伝って農業を実際に体験してみたい。
(神奈川県 30代)
- 今の仕事をリタイアしたら、第2の人生として農業もいいのではないかと考えています。お手伝いできる機会があれば、手伝ってみたいです。
(秋田県 50代)

まとめ あらためて目指す方向

- 自己改革実践サイクルの取り組みとして、准組合員の意思反映を明確にしていかなければならないものの、JA組織の主役である正組合員が減少する中で、准組合員が主役になるようでは本末転倒である。
- 監督指針には「見直し等が求められる場合には、農協改革の原点に立って必要な措置を検討・実施する」とあることから、農協解体への議論の再燃は起こりうる。

目指す方向



准組って
いいねが!
応援されて嬉しい

さらに

「准組 → 正組」に転換

- 農業に従事
- 農産物の出荷
- 農地を耕作
- 共同施設の利用

【そのために必要と考えること】

- ① 農業研修制度の活用
 - 移住促進対策で行政とコラボ
 - JA農業経営を検討
- ② 定款変更
- ③ 正組合員からの准組合員への理解促進
- ④ 准組合員の理事登用（社外取締役的存在）